

認知症の人への声かけ

2024.2.20 摂津ひかり24時間ケアセンター
管理者 野村恵子



認知症になると・・・

自分の居場所がわからなくなる

外出した目的を忘れる

道に迷って帰れなくなる

しかし

自分から助けを求めることが難しい



認知症の人が声をかけてくれた人が
近所の人だとわかるかは不明

相手は自分を知っているが自分は相手を
知らない

ますます不安になる・・・

声かけ

認知症の人を見かけたら

ためらってませんか

- ①まずは見守る
- ②余裕をもって対応する
- ③声をかける時は1人で
- ④後ろから声をかけない(視線を合わせる)
- ⑤やさしい口調で
- ⑥おだやかにはっきりした口調で
- ⑦相手の言葉に耳を傾けてゆっくり対応する

★偏見を持たず困っている人と思って下さい

まとめ

言ってはいけない言葉

否定する言葉

そんな事したらダメでしょ

強制する指示の言葉

いいから●●して

急がせる言葉

早くして！いつまで●●してるの

尊厳を傷つける言葉

こんなことも わからないの

激励しすぎる言葉

やったらできますよ頑張ってください

地域密着型サービス 定期巡回・随時対応型訪問介護看護

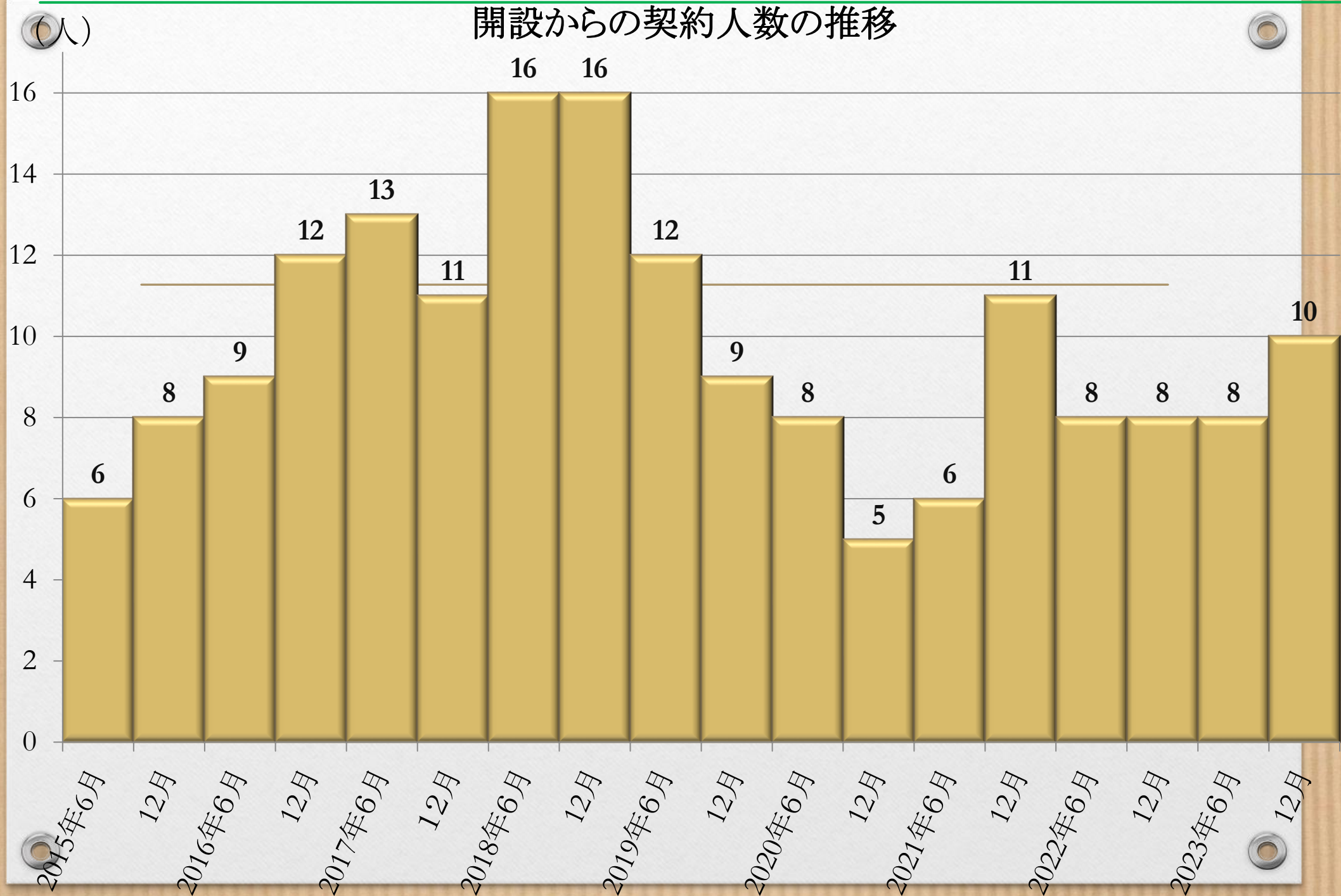
第22回 介護・医療連携推進会議

2024年2月20日

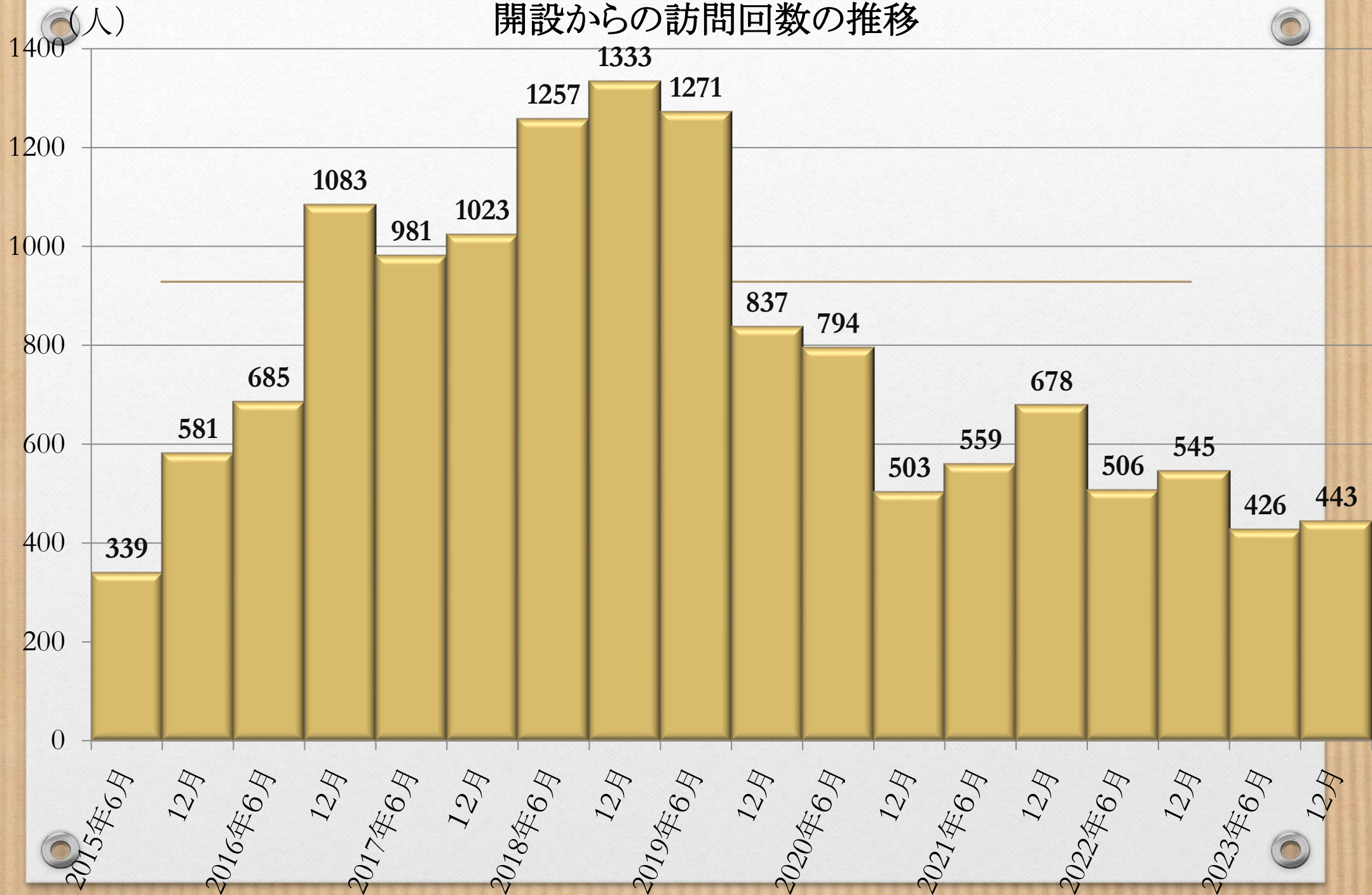
社会福祉法人 成晃会

摂津ひかり24時間ケアセンター

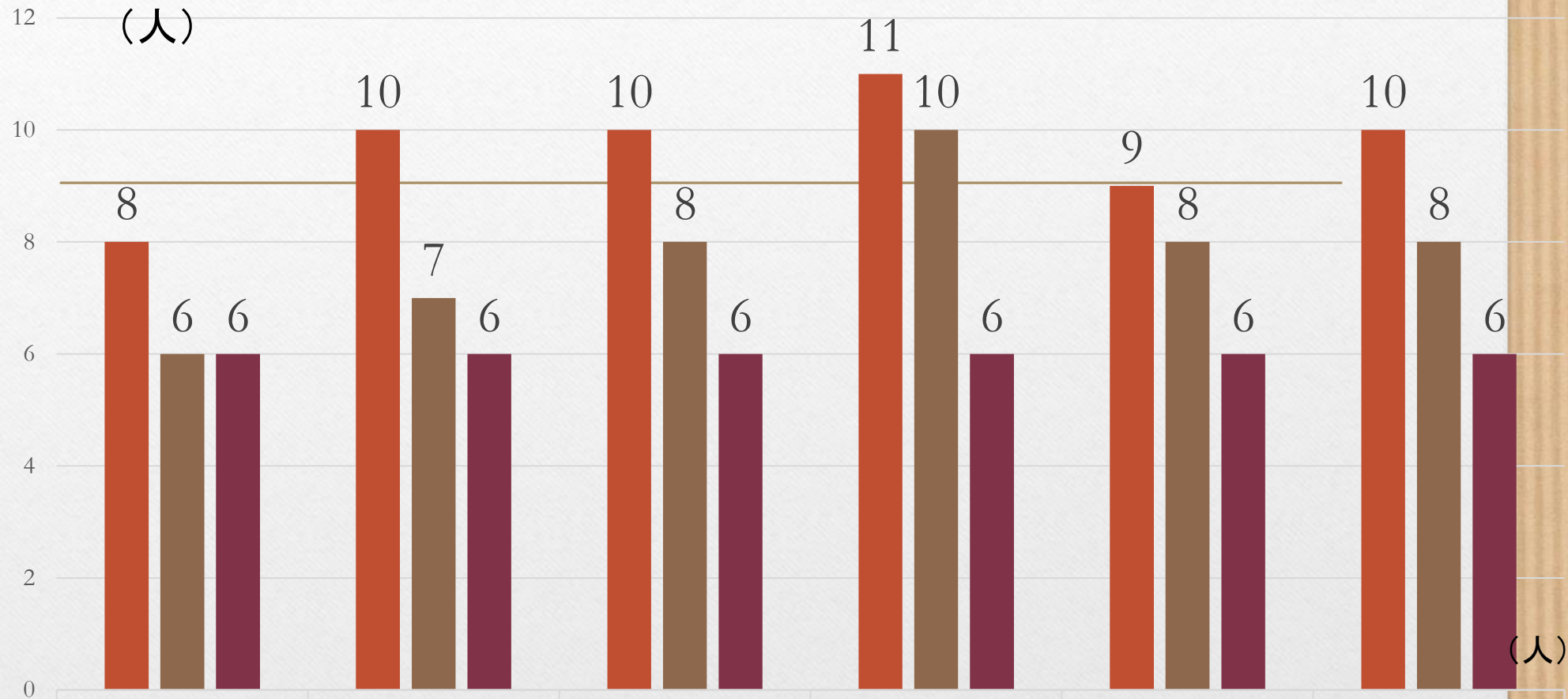
開設からの契約人数の推移



開設からの訪問回数の推移

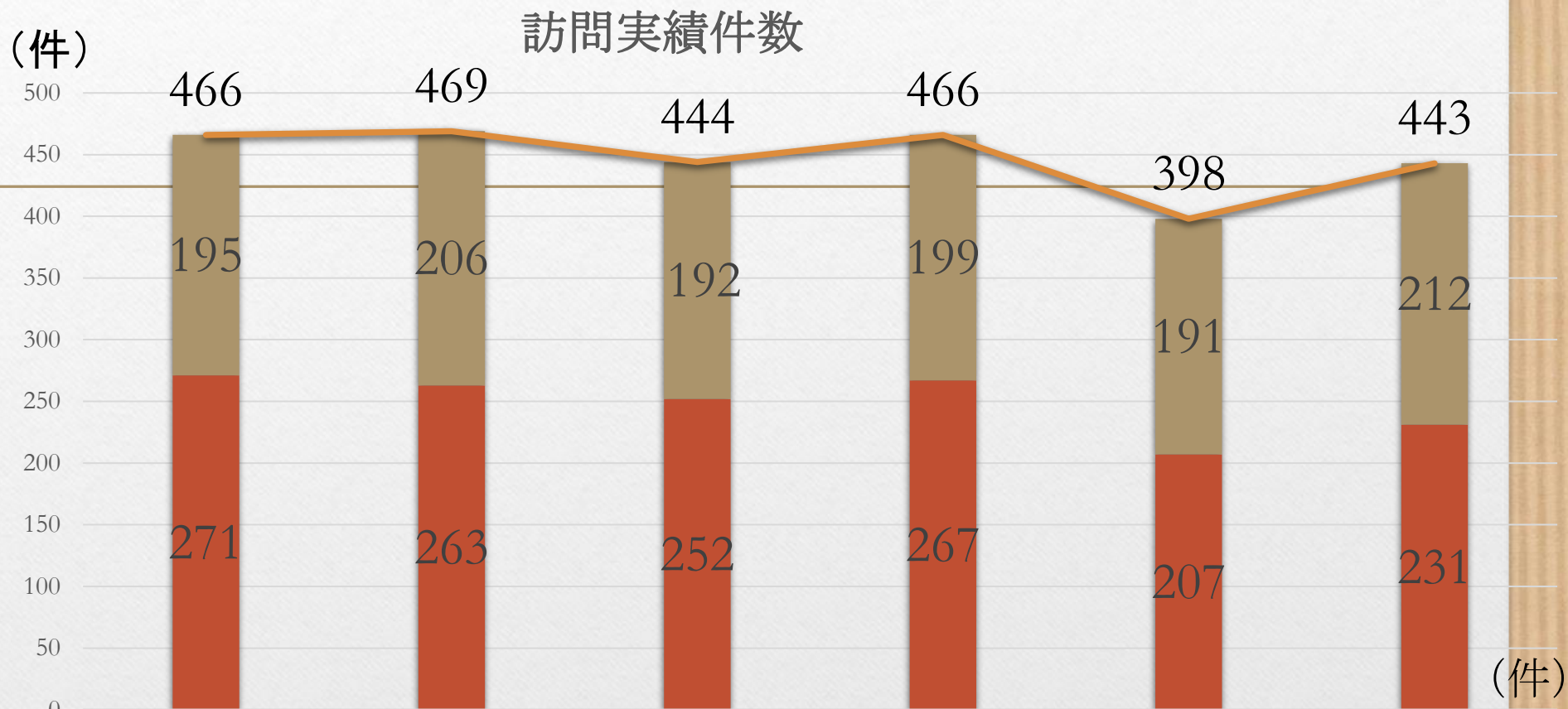


2023年7月～2023年12月契約者数



	7月	8月	9月	10月	11月	12月
■ 契約者数	8	10	10	11	9	10
■ 実利用者数	6	7	8	10	8	8
■ 職員の人数	6	6	6	6	6	6

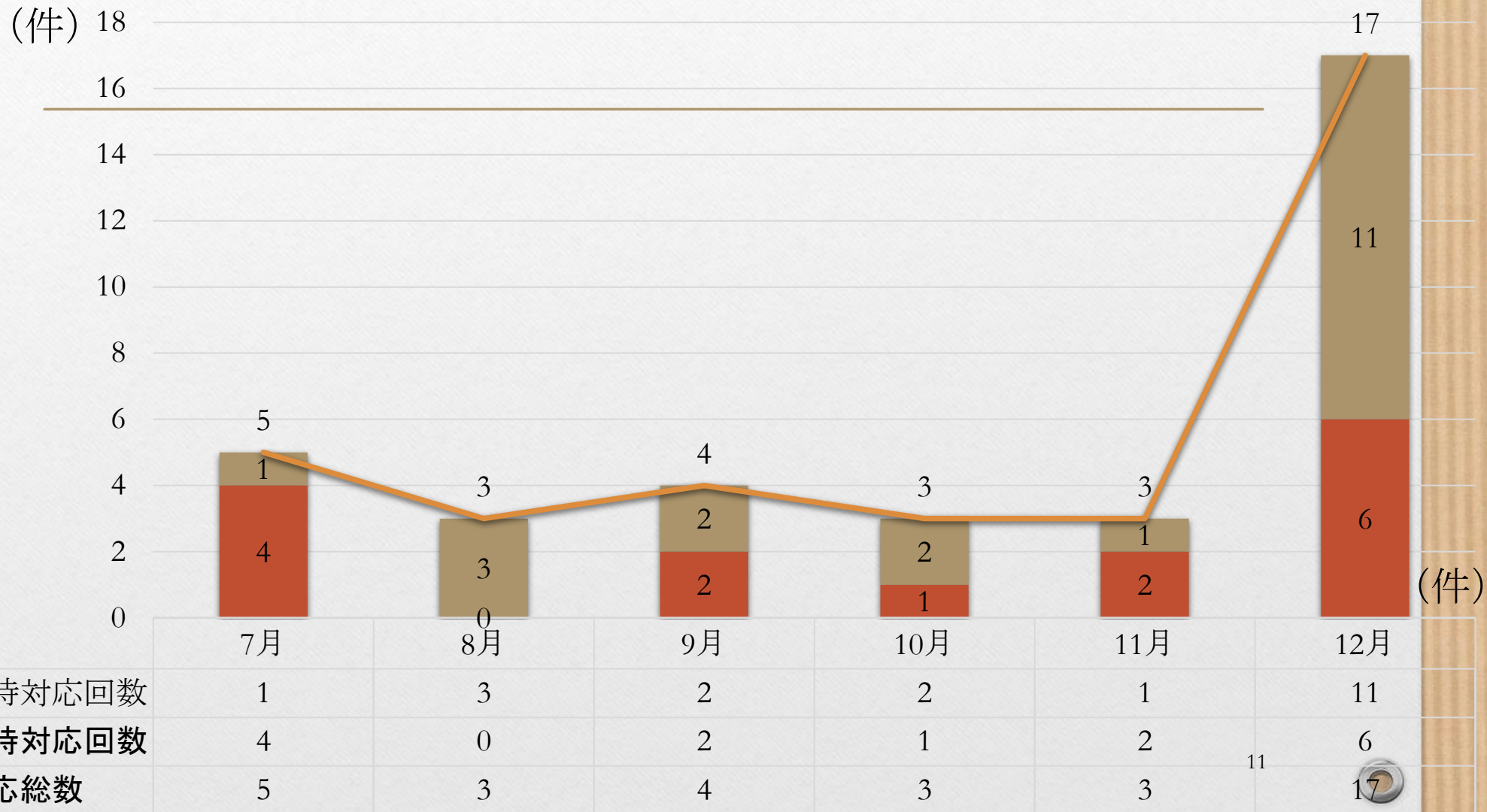
2023年7月～12月訪問実績



夜間訪問回数	195	206	192	199	191	212
日中訪問回数	271	263	252	267	207	231
総訪問回数	466	469	444	466	398	443

2023年7月～12月随時訪問実績

時間別随時訪問件数



開設から現在までの事業の検証

(2014年12月1日～2023年12月31日)

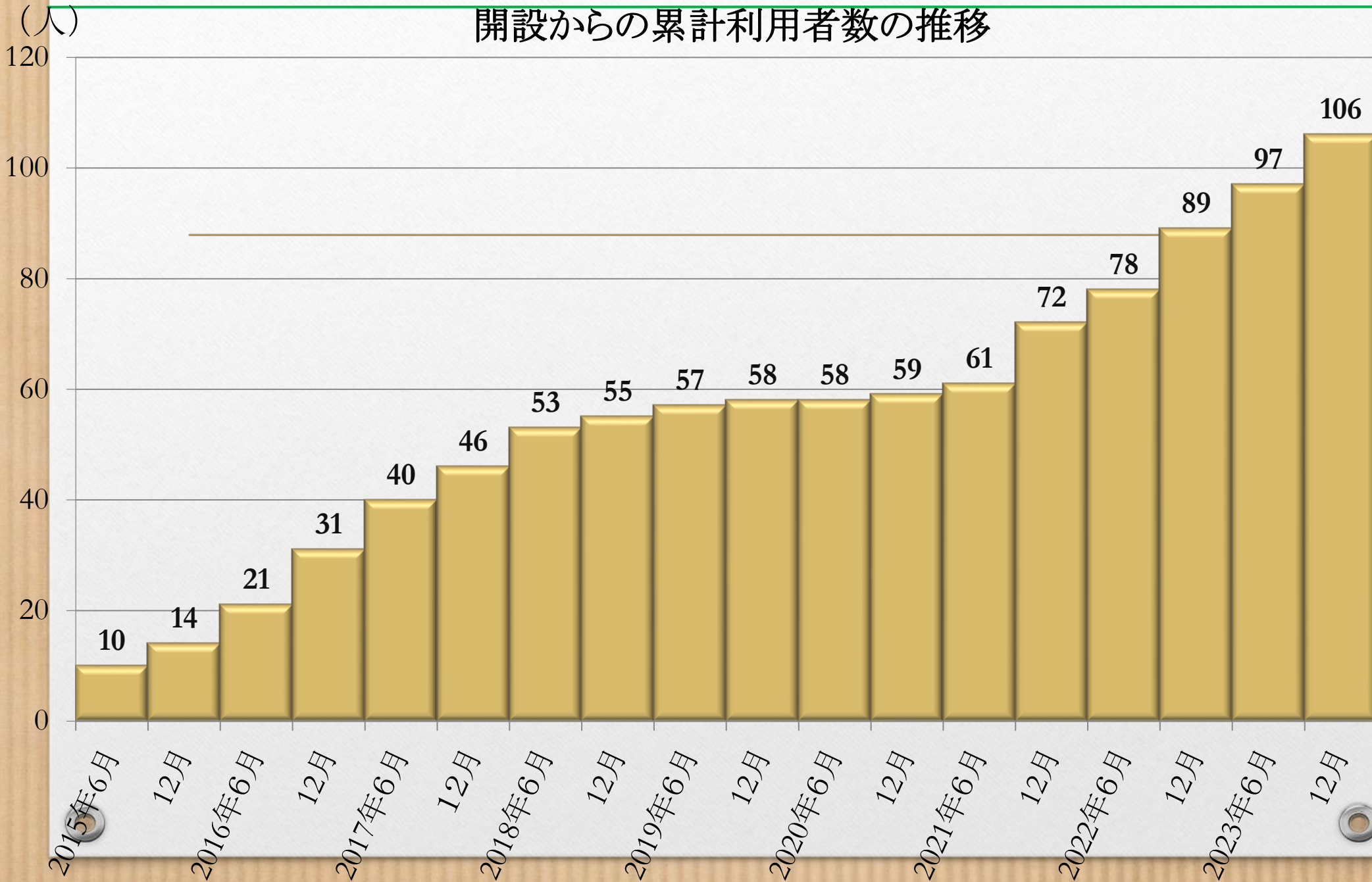
利用者総数 106名

現利用者数 9名

利用終了者の終了理由(2023年7月～12月)

- 入所の為、利用終了となる。(1名)
- 入院の為、利用終了となる。(1名)
- 死亡の為、利用終了となる。(6名)

開設からの累計利用者数の推移



介護・医療連携

事前カンファレンス

サービス開始前に医療情報の提示がなされている場合、連携訪問看護部および24時間ケアセンターにて、在宅サービス内容のカンファレンスを行い、病院側からのアドバイスを基に計画およびケアを実践しています。

ケース会議(1回/月)

連携している医師・訪問看護師・PT・栄養士・ケアマネジャー・相談員・当センター介護員で全利用者の身体状況・ケア方針・ケア内容を討議し、以降のケア内容の適正化および充実を図っています。

多職種会議(1回/月)

1人の利用者をテーマに医師・看護師・担当ケアマネジャー・管理栄養士等の出席により、利用者カンファレンスを開催し、多職種連携のメリットを最大限に生かした介護・医療連携による多角的な介護を実践しています。

勉強会(1回/月)

介護に関するテーマを設定し勉強会(認知症BPSDの発症の要因)を開催、介護士のスキルアップとより良いケアを目指すべく努力しています。テーマが医療的な場合、訪問看護師を講師に招き、実施しています。

日常の連携

訪問看護師と当センター介護員は24時間電話連絡が取れる緊急時連絡体制を確保しています。また、定期的なアセスメント訪問実施により、利用者様にとってより良いサービスを選定し、実施しています。

事例報告

ターミナルケア

(52歳)女性

介護度4(バルーン)

利用期間:2023年12/12～2024年1/29

訪問回数2回/日

・サービス内容→食事や内服の確認・陰部洗浄・
パットやガーゼの交換

随時訪問

・体交(早朝、夜間に多い)

ひかり訪問看護(医療) 1回/日

・点滴、服薬管理、褥瘡処置、尿破棄

※直腸がん末期の方で、病院での積極的な治療は望まれず、出来るだけ自宅で過ごしたいと希望され、利用開始となる。

1/29 検査結果が悪いわけではないが、臀部の褥瘡の痛みには耐えられず、本人希望により入院となり、利用終了する。

事例報告

看取りケア

(102歳)女性

利用期間:2022年7/1～2023年11/15

介護度5

訪問回数 4回/日 サービス内容→オムツ交換・陰部洗浄・水分補給・保湿剤塗布

ひかり訪問看護 1回/週→4回/週(褥瘡処置)

訪問入浴 3回/月

高齢にて自分自身で身動きをとることが難しくなっており、主介護者の娘様も高齢な為、無理ができず、慣れない介護のため、戸惑いや不安・負担が大きい。

娘様の希望としては、この先も自宅で過ごさせてあげたいという気持ちがあるが、自分1人では難しいと考えており、当所の介助や医療のサポートを使い自宅での生活を支えていくため、利用開始の運びとなる。迷いはあったが、自宅で看取る事になる。

2023年11/15に自宅で看取られ、利用終了する。

事例報告

看取りケア

(68歳)女性

介護度3(バルーン)

利用期間:2023年9/2~2023年9/6

介護の訪問回数 4回/日

・サービス内容→水分補給・食事介助
・排便時のオムツ交換・清拭

Hapi訪問看護(医療) 2回/日

・点滴・清拭・尿破棄

※すい臓がん末期の方で、環境を変えずに自宅での療養生活を希望され、利用開始となる。

体力がない為、訪問入浴は利用されず、週に1回訪問看護と当所スタッフの2人介助にて全身の清拭を行う。

9/6に自宅にて亡くなられる。

事例報告

随時訪問の内容

7月(5件)

- 排泄の訴えにて随時訪問行い、排泄介助を行う。(3件)
- 配食弁当を弁当屋が配達した際に不在であった為、安否確認で訪問する。訪問すると、家におられた。

8月(3件)

- 排泄の訴えにて随時訪問行い、排泄介助を行う。
- 入浴後、立位が取れずお風呂からベッドに戻れないと妻よりコールあり。更衣介助、ベッドまで誘導行う。助かりました。一人やったら出来てなかった。と感謝される。
- ベッドで寝ているが、ベッドの真ん中できれいに寝かせてあげてほしいと妻よりコールあり。介助にてベッドの中央へ体を移動してます。私出来ないから、うれしい、ありがとうねと言われる。

9月(4件)

- 排便の訴えにて随時訪問行い、排泄介助を行う。(4件)

事例報告

随時訪問の内容

10月(3件)

- 転倒したと長女よりコールあり、随時訪問行う。利用者の体格大きく、長女(介護士)と一緒に起こし、ベッドに寝てもらう。
体温が39.2℃あり、訪問看護へ連絡し、ロキソニンで様子みるように指示あり、内服される。
- しんどいとの訴えがあり、随時訪問行う。バイタルサイン測定するも異常なく落ち着かれ様子見る。(2件)

11月(3件)

- 排泄の訴えにて随時訪問行い、排泄介助を行う。
- 便失禁したと長男よりコールあり、随時訪問し排泄介助を行う。
- お尻が痛いと訴えていると長男よりコールあり、訪問し臀部確認し、アズノール塗布する。布パンツに履き替えたいと希望あり、オムツから布パンツに交換する。

事例報告

随時訪問の内容

12月(17件)

- 排泄の訴えにて随時訪問行い、排泄介助を行う。(4件)
- 不安の訴えあり、随時訪問し、話を傾聴することで落ち着かれる。
- 洗濯機の排水が詰まっているので見て欲しいとのことで、随時訪問行い。排水口を掃除することで水の詰まりは解消している。
- 頭痛の訴えあり、随時訪問する。自己にてロキソニンを内服され、少し様子を見ますとのこと。内服したことにより、頭痛はマシになったと次の訪問の際に言われている。
- 足や腰が痛く、体勢を整えてほしいと訴えあり。自己にて体勢を整えるのが難しい為、随時訪問し、体勢を整える。(10件)